

本模擬問題における問題等の著作権はすべて東京CPA会計学院に帰属します。無断転載・二次利用は固く禁止いたします。

第1問 (20点)

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現金	当座預金	普通預金	売掛金	繰越商品
建物	備品	土地	買掛金	未払金
前受金	所得税預り金	社会保険料預り金	資本金	利益準備金
繰越利益剰余金	売上	受取手数料	仕入	給料
法定福利費	広告宣伝費	支払手数料	保険料	損益

- 販売用の中古机を¥120,000で購入し、代金は未払いである。なお、当社は家具屋を営んでおり、家具の中古販売も行っている。
- 従業員へ給与¥250,000を支給するにあたり、社会保険料(従業員負担)¥30,000と、所得税の源泉徴収分¥4,400を差し引き、残額を当座預金口座より振り込んだ。
- 新店舗を出店する目的で、1㎡当たり¥15,000の土地350㎡と建物¥2,500,000を購入した。購入手数料¥77,500は普通預金口座から仲介業者に支払い、土地と建物の購入代金は月末に支払うことにした。なお、購入手数料は土地と建物の金額の割合で按分する。
- 1株当たり¥50,000で200株の株式を発行し、全ての払込を受け、株式会社を設立した。払込金は全額、普通預金口座に預け入れられた。
- 決算における損益勘定は以下のとおりである。当期純損益を繰越利益剰余金勘定に振り替えた。

損		益	
売上	29,730,000	売上	49,550,000
広告宣伝費	9,880,000		
給料	3,640,000		

第2問 (10点)

次の仕入帳と、現金勘定、支払手形勘定の記入にもとづいて、下記の問に答えなさい。

仕入帳			現金	
20XX年	摘要	金額		
11/6	熊本商店 現金・約手		11/1 前月繰越	150,000
	A品 20個 @ ¥250	5,000	13 売上	12,000
			25 受取手形	7,500
12	宮崎商店 掛			( )
	A品 25個 @ ¥240	6,000		
16	宮崎商店 掛・返品		支払手形	
	A品 5個 @ ¥240	( )	11/14 当座預金	( )
20	大分商店 現金		23 当座預金	6,000
	B品 15個 @ ¥280	4,200	30 次月繰越	7,500
			( )	( )

  

現金		支払手形	
11/6	仕入 ( )	11/1	前月繰越 8,000
20	仕入 ( )		
30	次月繰越 164,300		
	( )		

問 答案用紙の各日付の仕訳を示しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適切と思われるものを選び、記入すること。

現金	当座預金	受取手形	買掛金
支払手形	電子記録債務	売上	仕入

**第 3 問 (30 点)**

答案用紙の X1 年 1 月 31 日の残高試算表と次の [2 月中の取引] にもとづいて、答案用紙の X1 年 2 月 28 日の残高試算表を作成しなさい。

**[2 月中の取引]**

- 2 日 商品 ¥900,000 を仕入れ、代金は掛けとした。
- 3 日 商品 ¥850,000 をクレジット払いの条件で販売するとともに、信販会社への手数料(販売代金の 4%) を計上した。
- 5 日 未払金 ¥230,000 を普通預金口座から振り込んだ。
- 7 日 事業拡大のため、隣町のビルの 2 階を 1 か月当たり ¥130,000 で賃借する契約を不動産業者と締結した。この取引による保証金(敷金) ¥260,000 と不動産業者に対する仲介手数料 ¥130,000 を普通預金口座から振り込んだ。
- 9 日 先月の給料にかかる所得税の源泉徴収額 ¥20,000 を現金で納付した。
- 10 日 商品 ¥700,000 を仕入れ、代金は普通預金口座から振り込んだ。
- 12 日 商品 ¥1,030,000 を売り上げ、代金のうち手付金 ¥30,000 を差し引き残額は掛けとした。
- 13 日 従業員が出張から帰社したため、旅費交通費の精算をし、残額の ¥3,500 を現金で受け取った。なお、出張に際して、この従業員に現金 ¥15,000 を仮払いしていた。  
〃 収入印紙 ¥4,000 を購入して、現金を支払った。なお、この収入印紙はただちに使用した。
- 15 日 売掛金 ¥350,000 について、得意先の承諾後、電子記録債権の発生記録を行った。
- 16 日 買掛金 ¥200,000 を普通預金口座から振り込んだ。
- 18 日 貸付金の元本 ¥400,000 と利息 ¥10,000 の合計額を普通預金口座へ振り込まれた。
- 20 日 クレジット売掛金 ¥528,000 が普通預金口座に振り込まれた。
- 22 日 電子記録債権 ¥230,000 の期日が到来し、額面金額が普通預金口座に振り込まれた。
- 24 日 備品 ¥380,000 を購入し、設置費用 ¥4,000 を含めた代金を来月末に支払うこととした。
- 25 日 当月分の従業員の給料 ¥180,000 につき、所得税の源泉徴収額 ¥15,000 を控除した残額を、普通預金口座より振り込んだ。
- 27 日 水道光熱費 ¥45,000 と通信費 ¥8,000 が普通預金口座より引き落とされた。
- 28 日 商品を販売する契約を締結し、手付金として現金 ¥60,000 を受け取った。

**第 4 問 (10 点)**

松山商店は、日々の取引を入金伝票、出金伝票および振替伝票に記入し、これを 1 日分ずつ集計して仕訳日計表を作成している。下記に示された鹿児島商店の 12 月 7 日の伝票にもとづき、(1)仕訳日計表を作成しなさい。また、(2)入金伝票 No. 101 および振替伝票 No. 301 が 1 つの取引を記録したものとした場合、この取引で払い出した商品の金額を求めなさい。なお、当社の売上総利益率 (売上総利益 ÷ 売上高) は 35% である。

入金伝票 売上	No. 101 120,000	出金伝票 仕入	No. 201 85,000	振替伝票 売掛金(香川商店) 売上	No. 301 200,000 200,000
入金伝票 受取利息	No. 102 15,000	出金伝票 買掛金(徳島商店)	No. 202 108,000	振替伝票 買掛金(愛媛商店) 売掛金(高知商店)	No. 302 73,000 73,000
入金伝票 売上	No. 103 100,000	出金伝票 支払手数料	No. 203 2,400	振替伝票 仕入 買掛金(徳島商店)	No. 303 96,000 96,000

**第 5 問 (30 点)**

次の決算整理事項等にもとづいて、答案用紙の精算表を作成しなさい。なお、会計期間は 2019 年 4 月 1 日から 2020 年 3 月 31 日までの 1 年間である。

決算整理事項等

1. 仮払金は、3 月中に出張した従業員に対する旅費交通費の概算額である。なお、従業員はすでに出張から戻っており、残額 ¥20,000 は現金で受け取っているが、この処理を行っていなかった。
2. 当月の水道光熱費 ¥5,400 が当座預金口座から引き落とされていたが、未処理であった。
3. 残高試算表欄の土地のうち、¥800,000 を当期末に売却し、受け取った代金のうち ¥200,000 を仮受金と処理したのみである。なお、残額 ¥650,000 は来月末に受け取る契約である。
4. 売上債権の期末残高に対して 2% の貸倒引当金を差額補充法により設定する。
5. 期末商品棚卸高は ¥230,000 である。なお、売上原価は「仕入」の行で計算する。
6. 建物および備品について減価償却を行う。  
 建物：残存価額ゼロ 耐用年数 15 年 定額法  
 備品：残存価額ゼロ 耐用年数 5 年 定額法
7. 3 月分の従業員に対する給料の未払いが ¥103,000 ある。
8. 借入金は、2019 年 12 月 1 日に借入期間 4 年、年利率 2% で借り入れたもので、利息は毎年 11 月末に支払うことになっている。利息の計算は月割りで行う。
9. 保険料は 2019 年 9 月 1 日に向こう 1 年分を支払ったものである。